



# かわはく No.15

## CONTENTS

テーマ展示情報「探検！埼玉のダム」 .....	2
来館者サービスシステムのリニューアル .....	3
源流域状況調査報告 .....	4
今回の表紙写真は .....	4
川辺の生き物百科No.5 .....	5
「総合的な学習の時間」への対応 .....	5
身近な水紀行 .....	6
かわはく日誌 .....	7
かわはくで学ぼう .....	8



平成14年度第1回テーマ展 開催期間：平成14年9月21日～12月8日

# 「探検! 埼玉のダム」

今回のテーマ展では、ダムの作り方・ダムの内部構造・ダムの役割を通して、ダムの現実のありさま、ダムで働く人たちの現場を写真資料を中心に、紹介しています。また、写真資料以外に、浦山ダムの堤体をつくるコンクリートのコア（テストピース）、玉淀発電所模型・権現堂堤完成模型、水力発電関連の機材等を展示しました。詳しくは展示解説リーフレットを参照して頂くとして、ここでは、リーフレットに盛り込めなかった話題を紹介します。



浦山ダムのコンクリートコア（テストピース）  
水資源開発公団 荒川ダム総合事務所蔵

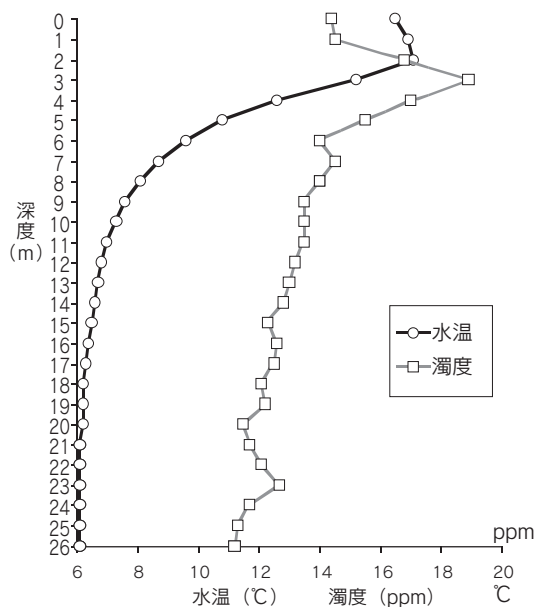
ダムをつくると、周囲の山の地下水位が変化するため、地滑りが発生することもあります。そこで地滑り監視の機器が周りの山々に設置されています。あるダムの管理所で聞いた話では、地滑りセンサーのワイヤーにカラスが止まったために、センサーが作動してしまうことがあるそうです。そのたびに確認に行かなければならず、たいへんだとのこと。

ダムの内部には、点検のための通路があります。大きなダムにはエレベーターがありますが、ダムによっては、長い階段になっているところもあり、上り下りも一苦労です。ここはたいがい年間の温度変化が少なく、夏でも12～3度と涼しく、しばらくいると、底冷えがします。

どのダムでも管理上たいへんなことの一つに、上流から流れてくる流木やゴミの問題があります。かつては焼却処分していたのですが、現在では、環境問題から焼却処分はできません。特に台風の後などに大量に流れ着く流木は量が多いだけに問題です。浦山ダムでは炭にして活用していますし、合角ダムでは、木材チップに加工して活用しています。



権現堂堤完成模型 埼玉県杉戸土木事務所蔵



水深による水温と濁度の変化 (合角ダム、平成14年6月26日)

ところでダムの管理所では、ダム湖の水質や水温の測定を定期的に行っています。図は、合角ダムの水温・濁度のデータです。これを見ると表層部は温度が高くても、5 m以下になるととても冷たい水であることが判ります。そのまま冷たい水を放流すると、下流の水界生態系への影響が大きいので、表層部分の水を選んで放流しています。ダム湖の水位は変動するので、違った高さから水を取り入れる選択取水装置というものがあります。ダムを訪ねたら、どこにあるか探してみましょう。

今回の展示が来館者の皆様にとって、ダムを取り巻く問題を身近に考えるきっかけとなれば幸いです。

(楡井 尊)



## 来館者サービスシステムのリニューアル

館内情報システムの更新に伴い、展示系の「荒川情報局」と「館内オリエンテーリングシステム」などの来館者サービスシステムがリニューアルしました。基本構成は同じですが、今までと比べて、早くきれいで大きく、さらに見やすく使いやすくなりました。

### ●荒川情報局 かわはくなんでも大百科●

5台のパソコンで川の百科事典・収蔵庫検索・治水予測ゲーム・館内オリエンテーリングゲームへのエントリーができます。その他32インチのタッチパネルモニターは5台のパソコンと同じ利用もできますが、拡大したり、高精細画像が閲覧できるようになっています。

■川の百科事典：荒川流域の自然や歴史、交通など様々な分野の情報を画像と解説で調べることができます。軽快な音楽によってカラフルな画面から気に入った場所やものをタッチパネルで検索しながら、あたかも「気球の旅」のごとくに調べ、楽しむことができます。

■収蔵庫検索：分類項目を増やし、検索しやすくしました。

■治水予測ゲーム：親しみやすいアニメーションにし、内容を一新して楽しみながら治水の必要性や方法を学べるようにしました。



### ●川の小さな図書館●

本を広げて調べ学習ができるように閲覧スペースを作り書棚を置くと共に検索用パソコンは2台を増やしました。



### ●見えてみてビデオ●

川に関する様々な映像を手軽に楽しむことができます。ビデオカセットの巻戻し入替方式を改め、デジタル化してコンピューター出力方式にしました。携帯リモコンにより、見たい映像が素早く、手軽に選択できると共に、瞬時に再生、視聴できるようになりました。埼玉県の河川に関する昭和20～30年代のニュース映像などを新しく加えています。



### ●館内オリエンテーリングシステム●

当館の施設や展示物等を題材としたクイズを第一展示室の各所におかれたパソコン画面上で解きながら回るゲームシステムです。団体でも参加でき、美しい画像と物語性、さらに多少のおどけも加え、ある程度展示物等の知識が要求されるなど幅広い層に受け入れられる工夫をしました。なおこのゲームは当館ホームページ (<http://www.river-museum.jp>) や携帯電話 (<http://mb.river-museum.jp> iモード、EZ-WEB、J-SKY対応) で楽しむことができます。

### ●その他●

レストハウスと本館入口のインフォメーションシステムは大型のプラズマディスプレイによる表示にしました。パソコン操作により分かりやすく、変化に富んだカラフルなお知らせ情報を提供しています。

(小久保 徹)



## 源流域状況調査報告 ▶ 千曲川水源を訪ねる

「やあ、こんにちは。今日はみんなに荒川のすばらしさを隅から隅まで感じてもらおうって思っているんだ。荒川の始まりは、埼玉県と長野県と山梨県、この3つの県が交わっている甲武信岳という深い山の中」これは、さいたま川の博物館のマスコット・カワシロウが、アドベンチャーシアター「かわせみ号」の中で最初に発するセリフです。(荒川ささ舟の冒険) この甲武信岳は、標高2,475mあり、日本百名山の一つでもあります。その名前は、旧国名で甲斐の国・武蔵の国・信濃の国の国境にあることに由

来します。

この分水嶺に降る雨や湧水は、東に流れれば荒川になり東京湾へ、南に流れれば、笛吹川(富士川)となり駿河湾へ、西へ流れれば、千曲川(信濃川)となり日本海へ注がれることとなります。

さいたま川の博物館では、毎年、この甲武信岳に登り、源流域状況調査を実施しています。平成14年は10月3日～4日にかけて、調査を実施しました。今回は、隅から隅までとはいきませんが、その一部、千曲川の水源を紹介したいと思います。



ナメ滝

休憩をとる登山者が多い場所です。



千曲川水源

水源地標付近から下流を撮影しました。



千曲川水源地標

国内最長の川の水源地標は左岸側にあります。



甲武信岳山頂

頂上から北方の景色です。右手に見える山が、県内最高峰の三宝山です。(2,483m)

## 今回の表紙写真は10月初旬の甲武信岳の紅葉です(長野県川上村)

10月初旬の甲武信岳は、秩父市街より一足先に紅葉を楽しむことができます。右側に赤く紅葉しているのが、ナナカマド類です。バラ科に属し、高さは10m程度の小高木です。果実は、赤く熟してたれ下がり、紅葉とともに山を美しく彩ります。北海道から九州の各地に分布し、街路樹などにも用いられます。名前の由来は、材が燃えにくく、7回かまどで燃やしても、燃え残ることからと言われていています。

また、各地の方言による呼称も様々です。その一部を紹介します。①ナラッカマド(秩父郡) ②マンサク[満作](秩父郡) ③カラタチバナ[唐橘](福岡県南部) ④アズキナシ[小豆梨](青森県) ⑤ニワトコ[接骨木](秋田県河辺郡、山形県北東部) ⑥ウワミズザクラ[上溝桜](青森県西津軽郡、秋田県北秋田郡) ⑦ナナカマ(千葉県成田市、長野県松本市、岐阜県揖斐郡) この他にも多くの方言で親しまれています。(河村康彦)



# 川辺の生き物百科

## No.5

セグロセキレイ

*Motacilla grandis*

(セキレイ科)

荒川の中洲や川原はもちろん、レストハウスの屋根の上や宮川の浅瀬、ときにはファミリー広場のエノキの周囲にも姿を見せる姿の美しい全長21cmほどの野鳥です。頭から胸、背中中は黒く、眉線と腹、嘴の下、翼は白くて、風切の先端部分は黒くなっています。ジージーと鳴きながら飛び交い、地上に下りると絶えず後半身を上下にゆすります。はっきりした特徴があるので、一度覚えると忘れられない印象に残る小鳥です。中流以上の河川の川原とその周辺に生息します。昆虫主体の食餌で、河川との結びつきは強く、市街地で見かけることもあります。主にトビケラ類、カワゲラ類、カゲロウ類の幼虫や成虫を捕食します。日本列島だけに分布し、九州以北では留鳥

です。繁殖期は3～7月で川の土手のくぼみや川原の石や流木の下などにお椀型の巣を作ります。

(小島明夫)



## 「総合的な学習の時間」への博物館対応について

話題性の高い「総合的な学習の時間」への博物館対応が本格化しています。当館では、小中学校の要望に基づき適時対応しております。今回は、小学校について、その典型的な実践例をご紹介します。

### 実践例1 「川や水への興味関心を高める」導入としての位置づけ

川遊びの楽しさ・川の自然の美しさ・変わりつつある川の環境・荒川や身近な川・水害等を説明し、その後水質調査の仕方を体験、さらに施設見学をしていただいています。

### 実践例2 授業展開をしていく中での疑問に答える

主な項目として、川辺の生き物・川の汚れ・流れる水の働きなどがあります。内容をしぼって可能な範囲で回答しています。必要に応じて川での自然観察や流水の働きの観察も行っています。

### 実践例3 川の水質調査を中心とした実践

水の汚れを調べたいという要望に基づき、川原の観察・気温・水温測定・透視度測定・各種パックテスト・水生生物による水質調査など、それぞれ視点を明確にして体験的な学習をしています。

紙面の都合上、簡単にふれましたが、さらに研究を深め、柔軟な対応プログラムの確立に努力して参ります。なお、本来は、個人又はグループへの対応が望ましいのですが、今のところクラスや学年単位となっています。学校受け入れは、原則として1ヶ月前までに、学芸一課までご連絡をお願いします。

(福島 智)



水生生物調査をする子どもたち



## 元荒川の親水空間と水辺公園

J R高崎線の吹上駅東口から、駅前通りを行田方面に向かって約300m歩くと、元荒川に架かる新宿橋に着きます。元荒川は、熊谷市久下地先に源を発する一級河川で、かつての荒川本流です。寛永6年(1629)に荒川が久下地先で締め切られた後は、荒川扇状地の湧水や伏流水を集めて細流を形成しています。

この地の元荒川は、吹上町の住宅街を北から南東方面に向かって流れていますが、生活排水などによる影響が少なく、流水が川底まで澄んでいることが特徴です。護岸は緩やかに傾斜し、水際につくられた遊歩道と兩岸の道路を結ぶ階段が各所に設けられ、市民が気軽に水際まで足を運ぶことができます。吹上町では、この良好な河川空間を活かすために、川の兩岸約2.5kmにおよそ500本の桜を植えて並木をつくり、随所に個性豊かな橋を架け、川には観賞用の鯉を放流しています。そして、市民に四季折々の川の風景の楽しさを提供しています。



吹上町本町付近の元荒川

護岸に咲く野花や水辺に集まる野鳥のさえずりは、川のせせらぎとともに、四季折々に市民の目や耳を楽しませてくれますが、なかでも、桜が見頃となる4月上旬には、水際の遊歩道を散策しながら花見見物をする多くの人々で賑わいます。また、少し上流の鎌塚イベント広場では、桜の開花にあわせて毎年恒例の「桜祭り」が開かれています。

新宿橋の手前を右に曲がって元荒川沿いを進むと、高砂橋が見えてきます。元荒川の親水整備は、この橋のところまで完了しています。この先の護岸は自然のまま、川幅が少し広がります。桜の並木も右岸だけになりますが、元荒川に沿って更に進むと、右手にせせらぎ公園が見えてきます。この公園は、人工池を中心とした日本庭園風の都市公園で、園内には水

車小屋・東屋・菖蒲園・藤棚などが配され、元荒川散策時の休憩場所としても便利です。せせらぎ公園を過ぎて約200m歩くと、「前谷落し」という水路がほぼ直角に元荒川へ合流しているのが目に入ります。左岸のことで、ここには水鳥橋が架けられています。この橋は高欄や橋桁などに工夫が凝らされ、中央には東屋が設けられています。水上に浮かぶ屋形船のイメージがあり、右岸からの眺めは芸術的です。

元荒川沿いには兩岸に細い道が通り、川には数多くの橋が架けられていますが、右岸側の道を歩いて遠所橋・筑波橋を過ぎると、やがて砂山橋に着きます。右岸の桜並木はここまで続いています。ここを左折し、砂山橋を渡って道なりに約300m歩くと、国道17号線に出ます。そして、国道を渡ってから歩道を鴻巣方面に約200m歩くと、左手に「水辺公園入口」と書かれた小さな案内板と細い道が目に入ります。これを左折し住宅街を約100m歩くと、水辺公園の入口に辿り着きます。

この公園は、三日月形に残った元荒川の廃川敷を利用して造成された親水公園です。かつての元荒川は蛇行河川でした。大正から昭和前期にかけて行われた河川改修によって現在の流路になりましたが、かつての元荒川は、蛇行してこの地を流れていたのです。吹上町では、堤内に取り残された数少ない旧河川の景観を保全し、市民に親しまれる水辺空間として活用するため、平成6年度に公園の整備を行いました。園内には、三日月形の旧河川を中心に、自由広場やモニュメント・俳句碑・東屋・遊歩道・池・循環水路などが設けられ、市民の憩いと潤いの場となっています。また、在来種による植栽で水辺の植生を再生させる工夫も施され、水辺の自然を観察する場としても期待されています。(沼野 勉)



旧河川を活かして整備された水辺公園



# かわはく日誌

7月1日～10月31日

- 7月6日(土) 映画会「七つの星」(53人)  
子ども放送局「のぞいてみよう知らない世界 太陽・地球」(27人)
- 7月6日(土)～7日(日) 川の日記念イベント「七夕づくり」(843人)
- 7月7日(日) カワシロウのワークショップ 簡単にできる水圧実験 (39人)
- 7月10日(水)～12日(金) 行田進修館高校生徒による博物館就業体験(5人)
- 7月13日(土) 土曜おもしろ博物館「箱メガネで荒川の魚を観察しよう」(98人)
- 7月14日(日) ボランティアによる「ガリバーウォーク」(荒川大模型の展示解説) (24人)
- 7月20日(土) 荒川劇場「川と太鼓」石尊太鼓保存会(233人)  
子ども放送局「何度もやってみよう世界とふれあおう」(90人)
- 7月20日(土)～9月8日(日) 特別展「水辺の妖怪：河童」開催
- 7月23日(火)～26日(金) 学芸員実習「資料取り扱い実習／展示プラン企画と立案／情報システムの管理と運営」
- 7月27日(土) 特別展ワークショップ絵馬に河童の絵を描く(22人)  
子ども放送局「チャレンジ教室・雨粒をつかまえよう」(37人)  
学芸員によるガリバーウォーク (25人)
- 7月27日(土)・29日(月) 利用促進研修会：小中学校の教員等を対象とした当館を有効に利用するための研修会 (82人)
- 7月28日(日) 川辺の県民交流イベント「鳴子&太鼓フェスティバル」(377人)
- 8月1日(木) 水の日記念イベント「おいしい水を調べる」(110人)  
学芸員実習(～3日) (12人)
- 8月3日(土) かわはく夏祭り(2,730人)
- 8月4日(日) カワシロウのワークショップ「簡単にできる水圧実験」(80人)
- 8月7日(水)～9日(金) 教員5年次社会貢献活動体験研修(4人)
- 8月8日(木)～11日(日) 川と水の体験スクール 水生生物調査魚取り体験 中洲探検(計318人)
- 8月17日(土) 特別展ワークショップ 人形劇・紙芝居と腹話術 (141人)

- 8月18日(日) 映画会「カッパの三平」(175人)
- 8月22日(木)～25日(日) 川と水の体験スクール 水質調査／魚取り体験／中洲体験 (計282人)
- 8月24日(土) 学芸職員によるガリバーウォーク (128人)
- 8月31日(土) 特別展講演会「河童とは何か」講師：中村禎里氏(立正大学名誉教授) (121人)
- 9月1日(日) カワシロウのワークショップ「ダムのお不思議体験」(75人)
- 9月7日(土) 映画会「那須疎水物語」(35人)
- 9月11日(水) ボランティア研修会現地見学(武甲山・浦山川上流部ほか) (5人)  
社会教育施設体験初任者研修(31人)
- 9月14日(土) 土曜おもしろ博物館「川原でバッタやトンボを観察しよう」(75人)  
子ども放送局夢スタジオ1030「演出家が作る夢の舞台」(25人)
- 9月21日(土) テーマ展示「探検！埼玉のダム」開催(～12/8)  
ボランティア養成講座「ボランティア活動について」(11人)
- 9月22日(日) ボランティアによるガリバーウォーク(5人)
- 9月28日(土) 子ども放送局チャレンジ教室「おりがみってすごい！一枚の紙から生まれる世界」(27人)  
学芸職員によるガリバーウォーク (14人)
- 9月29日(日) カワシロウ講座「荒川扇状地の謎にせまる」斉藤享治氏(埼玉大学教授) (29人)
- 10月5日(土) 映画会「トム・ソーヤの冒険ーあこがれの蒸気船ー」(47人)  
子ども放送局「研究室におじゃまします」「海をきれいにする生き物って？」(13人)  
ボランティアによるガリバーウォーク (57人)
- 10月6日(日) カワシロウのワークショップ「ダムのお不思議体験」(61人)
- 10月12日(土) 土曜おもしろ博物館「草木染めにチャレンジ」(59人)
- 10月19日(土) 県民交流イベント「フォークダンスの集い」寄居町フォークダンス連盟 (131人)
- 10月20日(日) テーマ展示ミュージアムトーク (26人)
- 10月27日(日) 野外教室「荒川を歩くIX」(秩父公園橋から浦山ダムまでの荒川観察) (27人)



開館以来の入館者数 137万8,650人

(10月末現在)

# 12月

5/木・12/木 野外教室「荒川河口を見る」

7/土 映画会「魔女の宅急便」(102分) 13:30～☎

14/土 土曜おもしろ博物館  
「クリアードリーフをつくろう」  
①10:30～12:00 ②14:00～15:30  
定員32人☎

15/日・21/土・22/日 高校生のための環境学習講座  
10:00～16:00  
荒川低地における水環境と洪水の特性を読み取る

21/土～2/2/日 第3回子どもが描く荒川の絵画作品展



# 1月

11/土 土曜おもしろ博物館「砂絵を描こう」  
①10:30～12:00 ②14:00～15:30  
定員32人☎

18/土 映画会「ムーミン 氷の国をめけだせー」  
(25分)13:30～ 14:30～再上映

18/土・2/1/土 ワークショップ「炭焼体験」  
炭材の窯入れから炭出しまで☎



## かわはくで学ぼう!!

### イベント情報コーナー

# 2月

1/土 映画会「はくちょうになったあひるのこ」  
(30分)13:30～ 14:30～再上映

8/土～3/2/日 第22回川の写真コンクール

8/土 土曜おもしろ博物館「冬の使者白鳥をみよう」  
①10:30～12:00 ②14:00～15:30 定員32人☎

23/日 荒川ゼミナール「新河岸川総合治水の現状と課題Ⅰ」  
講師：当館学芸員 13:30～ 定員50人☎



# 3月

1/土 映画会「走れ白いオオカミ」(84分)

8/土 土曜おもしろ博物館  
「ストーンペインティングに挑戦」  
①10:30～12:00 ②14:00～15:30 定員32人☎

23/日 荒川ゼミナール「新河岸川総合治水の現状と課題Ⅱ」  
講師：当館学芸員 13:30～ 定員50人☎

15/土～6/29/日 テーマ展示『埼玉の鉄道橋－列車から見える川の風景』(仮称)



原則として、毎月第2土曜日10:30～と14:00～は「土曜おもしろ博物館」・第1土曜日13:30～は「シネマかわはく(映画会)」が開かれます。都合により変更となる場合があります。最新情報は彩の国だより等で紹介されています。

参加はどれも無料で、定員になりしだい締め切ります。

インターネットでも情報が紹介されています! <http://www.kumagaya.or.jp/~kawahaku/index.html>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承ください。②☎印のついた行事は、電話もしくは、FAXで原則として実施月の1日からお申し込みください。③川の情報もお寄せください。

編集・発行

## さいたま川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39

TEL/048-581-7333(庶務)・8739(学芸) FAX/048-581-7332



彩の国さいたま

2002年12月10日発行



お墨付き100%再生紙を使用しています